

動物と人間の素敵な関係



リレートーク開催

動物とのおつき合いを考えるーをテーマに10月25日、松本朱実氏ら講師6人によるリレートークがカレッジホールで開催されました。動物と人間との共通性、絆、ペットの飼い方…など、身近で興味あふれる話題に卒業生・在学学生180人が熱心に聞き入っていました。ふれあいホールでは、10月21日から10日間、動物のパネル写真展が開かれました。この催しは、生環コースが「交流フェア」として毎年開いており、生物多様性・六甲山・水につづき4回目。今回はカレッジ開校20周年行事の一環でカレッジ主催、グループ〈わ〉など共催で行われました。

地球上に生命が誕生して以来、生命体は何度も絶滅の危機に瀕してきましたが、自然の調整力によって生き延びてきました。しかし、多くの種がすでに絶滅し、あるいは絶滅寸前にあり、その大きな原因として人間が自然治癒力である生物多様性を破壊していることにあります。私たち、このことを認識し他の生命、特に動物との共存について考えていくことが求められています。

講師6人が発表

●講師のテーマ・発表順は次の通りです。

- ①松本朱実：動物教材研究所pocket主宰 「動物たちの世界は不思議がいっぱい」
- ②佐々井浩志：北須磨動物病院院長 「動物と人の健康は一つ。そして、それはみんなの願い」
- ③湯木麻里：神戸市動物管理センター係長 「不幸な犬や猫たちを減らしたい」
- ④井田竜馬：行政書士、1級愛玩動物飼養管理士 「ペットをめぐる法律のお話し」
- ⑤横山真弓：兵庫県立大学准教授 「人と野生動物との共存を目指して」
- ⑥嶋谷吉彦：神戸市立王子動物園副園長 「動物園の役割から」

動物写真は在学生から公募

動物写真はカレッジ生から公募したもののほか、次の方々からの提供です。公募写真は約100枚が寄せられました。

＊児玉小枝：フォトエッセイスト、動物福祉ネットワーク代表
「ラストレポート～この世に生を受けて」

＊神戸市動物管理センター「幸せになった犬・猫」

【各講師の講演内容】

●松本朱実講師 ヒトも動物の一種であり、他の生き物や自然に支えられて生きてきました。その支えになっている生物多様性が種々の原因によって危機に陥っています。これを打開し、次世代に豊かな自



▲ロビーに展示されたユーモラスな動物写真

然資源を残すためには人間の働きかけが必要です。ペット・家畜は飼い主が必要なケアを怠らず、生涯、適正に飼育する責務があります。また、野生動物とは人と一定の距離を置き、持続可能な自然保護下で自力生活ができる環境を保持する必要があります。動物の生態を理解し、調和のとれた関係性を築くことは、私たちの健全で豊かな暮らしに繋がります。

●佐々井浩志講師

犬は1万年以上前から人との共同生活を営みよき仲間として過ごしてきました。動物医療とは「ペット」あるいは「コンパニオンアニマル」とも呼ばれる「伴侶動物」のための医療です。この動物との絆を最良に維持することが動物医療の根本となります。ペットは家族同然の存在となっていますし、他に産業動物（家畜）、展示動物、野生動物などと様々な形で関わっています。動物との接触が人間にとって精神的、肉体的によい影響を与えることはよく知られています。人間と動物が幸せな生活を過ごすためには、動物を正しく知り、恐れ、愛することが必要です。

動物と暮らす楽しさ

生活環境コースコーディネーター 北尾 進

「リレートーク」の開催につきまして〈グループわ〉の皆様には大変お世話になりありがとうございました。当日は気象警報が出るかどうかというお天気でしたが、180人余のご参加を得て無事開催することができました。

「交流フェア」は、3学年の合同授業であるとともに卒業生や市民の皆様にもご参加頂き、第1回の「生物多様性」以来、「六甲山」、「水」とこれまでのグループ学習によく取り上げられていたテーマを開催してまいりました。今回は「動物」。私たちは「伴侶動物」に癒され、介助犬や盲導犬に助けられるなど、動物とともに暮らしています。また、一方では野生動

物とのトラブルも発生するなどの問題もあります。このような中、私たち人間との素敵な関係づくりを考える場にしたいと考え「動物」

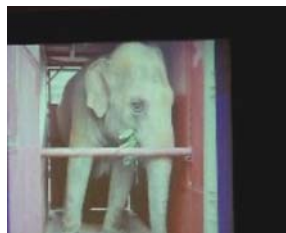
をテーマとしました。「トーク」では講師の皆さんからモノを言わない動物の生態や健康・福祉のことをよく考えて行動することの大切さや、動物の健康は人間の心と体の健康ともつながっていることを教えられました。来年も何かのテーマを考えて開催したいと思います。



撮影：松本朱実



撮影：松本朱実



●湯木 麻里講師 市民の安全・安心を守ること（管理）、命を大切にすることを（愛護）が動物愛護管理行政です。そのため、放棄された犬猫を引き取る業務を行っています。その数は平成24年度で1754頭で、その内約95%が殺処分されました。原因は飼い主の病気、入院、死亡であり、他には動物が高齢で病気になった、増えすぎたなどがあります。迷子になった犬猫が飼い主に戻る割合は神戸市では、犬で約40%、猫で1%に過ぎません。改善策としては身元の表示をつけることも必要です。また安易でミスマッチな飼育、高齢者による飼育についても考えるべきです。市民文化としての動物の保護施設も必要です。

●井田 竜馬講師 動物愛護法が改正され2013年9月1日から施行されました。この他に私たちの生活に関わっている動物関連の法律が20以上あり、飼い主の責務が規制され、飼われている、いないに拘わらず虐待すれば罰せられます。狂犬病予防法により予防注射が義務付けられており、外来生物法により特定外来生物の飼育には厳しい制約があります。ものを言わない存在だから、人間の動物に対する意識が重要になってきます。

●横山 真弓講師 野生動物は生態系のバランスの中で生存競争を生き抜いているが、人の生活の影響を受け、バランスが崩れ、特定の動物種だけが急激に増加しています。最も強く影響を受けているのがニホンジカで、過去に絶滅寸前まで減少したが、現在では保護政策などにより増加し、一番の農林被害を与えています。兵庫県では約3万頭の鹿を捕獲しているが、そのほとんどを廃棄しています。これを資

源と見直し、生活に利用することも必要であります。このように“個体数調整”の実践も必要だが、方法を考え、共存に導くこと（ワイルドライフマネジメント）が人間の責任です。

●鳴谷 吉彦講師 動物園とは、野生動物と出合える場所であり、野生動物とは何かを考えるきっかけになる場でもあり、福沢諭吉によって名付けられました。動物園には4つの役割があります。①種の保存：動物を絶滅させない。遺伝的多様性を確保し、国際的な繁殖計画を立案。②教育・環境教育：動物園は環境教育の入り口、動物科学資料館の運営・教育支援事業・動物ガイドなど。③調査・研究：野生動物は家畜と違い、よく研究されていないので、生態・繁殖・生理・行動などの研究。行動観察など、研究機関との共同研究などを行う。④レクリエーション：動物を見て楽しむことなどであります。

（まとめ・北村洋）

フィリピン台風救援募金

昨秋、フィリピンを襲った巨大台風は、死者・不明7千人を超す甚大な被害をもたらし、世界中から救援の手が差し伸べられています。KSCも事務局・グループ〈わ〉・ボランティアセンターの3者が共同で募金活動を実施しています。12月20日の第1次締め切り分では36,002円の募金が寄せられ、神戸市社会福祉協議会を通じて、現地へ届けました。

募金活動はカレッジロビーに募金箱を置くほか、区会・部会・サークルなどで呼びかけ、2月まで継続します。在学生・卒業生のご協力をお願いします。区会・部会・サークルの募金はグループ〈わ〉事務所（☎743-8101）へご持参ください。